

# トラック輸送情報（平成15年12月分）

平成16年 2月27日

国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課

担当：金子、荒木 内線28-315

直通 03-5253-8342

ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>

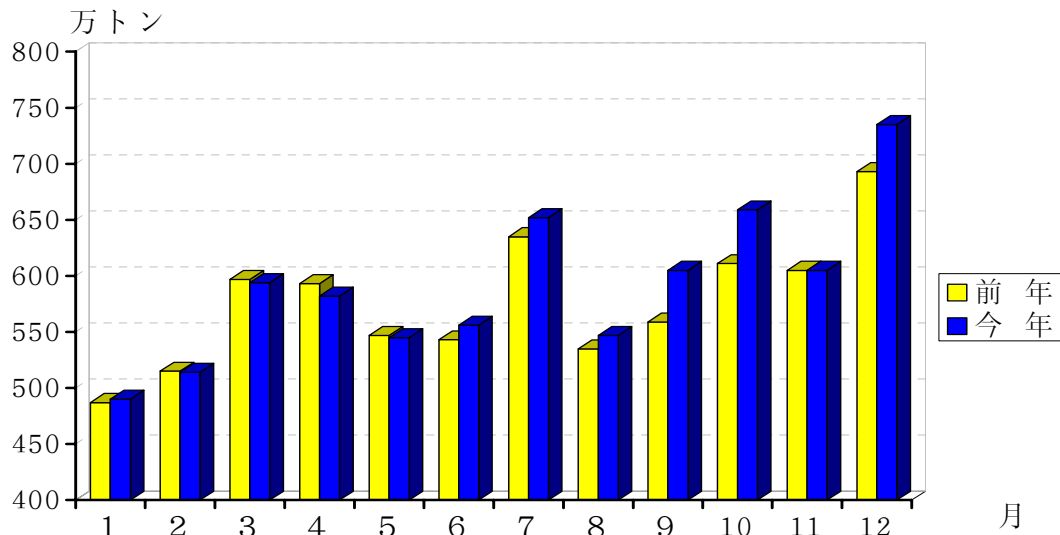
## 1. 特別積合せ貨物

### (1) 本月の輸送状況

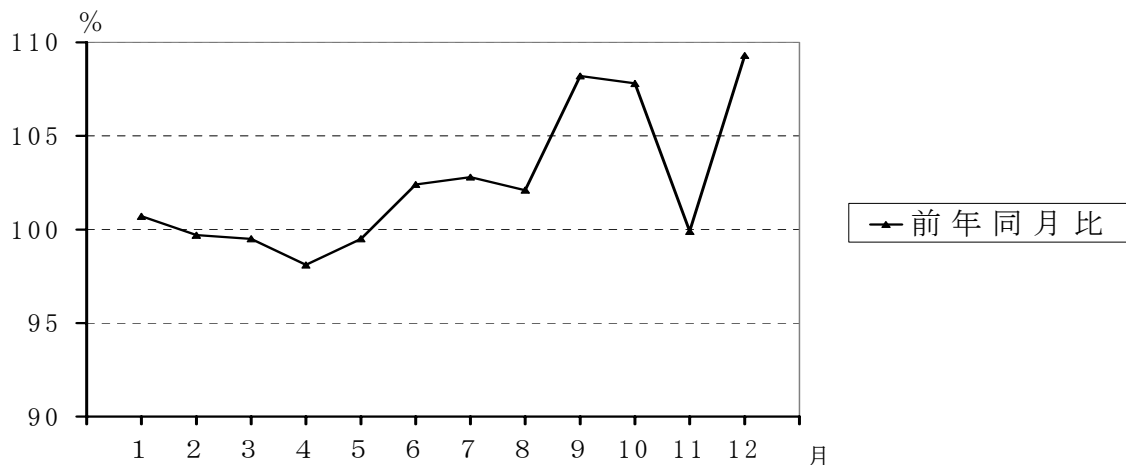
調査対象26社の本月の輸送量は7,346,812トンで、前月と比べ、総輸送量が約130万トン増加したため、前月比121.4%（季節調整済み103.5%）、前年同月と比べると、約62万トン増加したため、前年同月比109.3%の実績であった。

なお、平均稼働日数は、23.4日で、前月と比べ、0.6日の増加、前年同月と比べると、0.4日の増加であった。稼働1日当たりの輸送量は、313,966トンで、前月と比べ、約5万トン増加したため、前月比118.3%、前年同月と比べると、約2万トン増加したため、前年同月比107.4%の実績であった。（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）26社の輸送トン数の推移



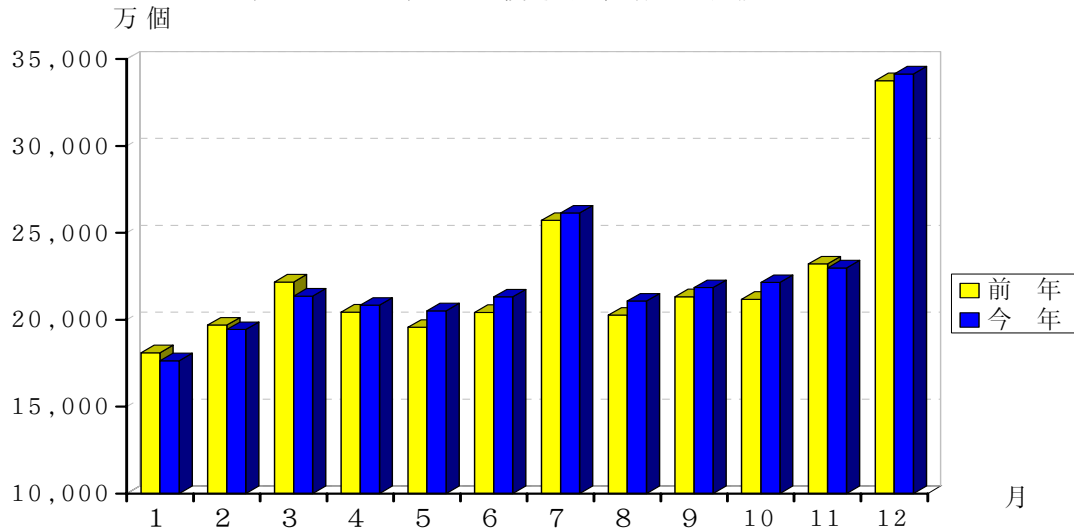
（図1-2）26社の輸送トン数の前年同月比



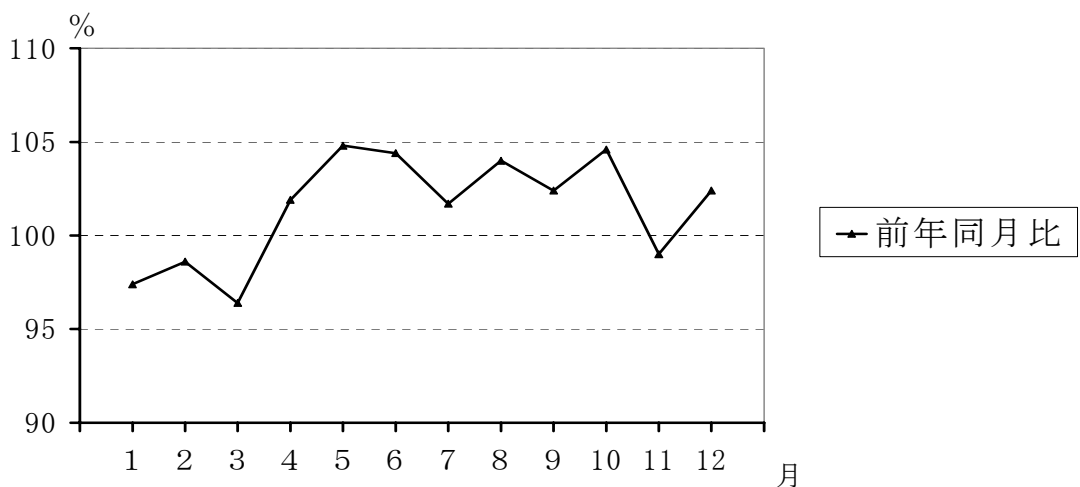
## (2) 宅配便の輸送状況

調査対象20社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、341,421千個で、前月と比べ、約11,152万個増加したため、前月比 148.5% (季節調整済み 98.6%)、前年同月と比べると、約786万個増加したため、前年同月比 102.4%の実績であった。(図2-1、図2-2参照)

(図2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



## (3) 品目別及び地域別輸送状況

本月の輸送は、前月と比べ、稼働日数が0.6日増加し、また、お歳暮の時期でもあるため、ほぼ全ての品目において増加傾向にあった。中でも、食料工業品が全国において、季節的な需要増を主な理由として、日用品が全国において、工場・生産地、商社・問屋及び倉庫から出る貨物増を主な理由として増加している。

前年同月と比べると、全ての品目において増加傾向にあった。中でも、日用品が関東を中心に全国において、工場・生産地からの貨物増を理由として増加している。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 26社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※増減要因	
	著増	増	変らず	減				
前月に比べて	農水産品	2	2	11	2	農産物、青果物、水産物	中国、九州	4, 6, 8
								東北、北陸信越、関東
	金属製品		4	15	1	電気製品、鋼材	北陸信越、関東、近畿	4, 8, 9
	機械		5	14	1	機械部品、民生用電気器具	北陸信越、関東、近畿、中国	4, 7, 8
						機械製品	関東	4
	化学工業品		8	12	2	石油製品、樹脂、塗料・オイル	北陸信越、関東、近畿、中国	4, 7, 8
							東北、北陸信越、関東	
繊維工業品	1	4	14	3	1	繊維	北陸信越、関東、中部、近畿	4, 8
							関東	4
食料工業品	4	9	6	1	製造食品、加工食品、飲料	全国	4,5,7,8	
日用品	1	11	9		一般貨物、身廻品、印刷物	全国	4,5,7,8	
その他	3	8	8	1	宅配貨物、百貨物配送品	全国	2, 4, 8	
					紙パルプ	北陸信越、関東、中部	4, 8, 9	
前年同月に比べて	農水産品		3	16		青果物、農産物、水産物	北海道、東北、中国、九州	4
	金属製品		3	13	4	金属	全国	4, 9
						綿材製品、建築用金属製品、工具	北陸信越、関東、近畿	4,5,7,9
	機械		3	15	2	電気機械、機械部品	全国	4, 9
						機械部品、自動車部品	関東	4
	化学工業品		4	16	2	化学薬品、化成品	東北、関東	7
							関東	4
繊維工業品	1	2	13	6	1	織物、繊維	全国	4, 9
						糸、繊維製品	関東、中国	4, 5, 7
食料工業品		5	12	3	飲料、食料工業品、加工食品	東北、北陸信越、関東	4, 7	
					加工食品	全国	2,4,5,9	
日用品	1	6	10	4	一般貨物、身廻品、印刷物	全国	4,5,7,9	
					印刷物、日用雑貨、書籍	全国	4,5,7,9	
その他	1	5	11	3	宅配貨物、百貨店配送品	全国	2, 4	
					資材関係、百貨店配送品	関東	9	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

※増減要因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

## 2. 一般貨物

### (1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 863社 / 調査対象事業者数 1,073社）の輸送量は、前年同月比100.9%、前月比105.8%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北陸信越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	100.9%	99.6%	96.9%	102.0%	102.3%	107.8%	99.0%	97.8%	100.5%	103.3%	108.1%
前 月 比	105.8%	100.9%	104.2%	108.2%	105.2%	104.6%	105.7%	106.0%	107.4%	116.2%	118.0%

### (2) 地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、冬期に入り暖房用灯油の「その他の石油製品」、排雪等の「廃棄物」及び年末期をむかえ「食料工業品」、「日用品」等の輸送増があったが、収穫期の終了により農産品、土木・公共工事の減少により「砂利・砂・石材」、「セメント」等の輸送減があったことから、対前月比100.9%となった。また対前年同月比も99.6%であった。今後の輸送見通しは、次月及び以降共に下降傾向にある。</p>
東北	<p>本月の輸送は、お歳暮のシーズンということもあり「食料工業品」「取り合せ品」の輸送量増加や、季に入ったことで石油など「その他の石油製品」の輸送量増加が見られたため、対前月比は104.2%となった。一方、その石油製品も暖冬により前年に比べ輸送量が伸びなかったこともあり、対前年同月比は96.9%となった。今後の輸送見通しは次月及び以降ともに下降傾向にある。</p>
関東	<p>本月の輸送は、冬期及び年末に伴い「食料工業品」「日用品」「その他の石油製品」の増加が目立った。また、お歳暮等の「取り合せ品」も増加した。このため輸送の感触としては、対前月比108.2%、対前年同月比102.0%ともに増加となった。 今後の見通しについては今月の輸送量が多かったこともあり、次月及び以降とも減少傾向にある。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、冬期及び年末期に伴い品目毎の輸送の増減が見られた。工事の減少により「セメント」「その他の窯業品」が減少した一方、「その他の石油製品(灯油)」「食料工業品」等の輸送増があった。このため、対前月比は105.2%、対前年同月比は102.3%とともに増加した。 今後の輸送見通しは、次月及び以降共に減少傾向にある。</p>
中部	<p>本月の輸送は、引き続き首都圏での排ガス規制により荷主からの依頼の減少や年末の稼働日数減により「その他の石油製品」の輸送減を回答する事業者もあったが、年末に向けての「水産品」や年末を繁忙期とする建設関係の「機械」、薬局のチェーン店からの「日用品」等の輸送が好調であったことにより対前月比は104.6%、対前年同月比は107.8%と増加した。 今後の輸送見通しは、次月及び以降とも減少傾向にある。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、年末繁忙期に入り、百貨店貨物が多く占める「取り合せ品」や暖房用具等の需要が高まったため「日用品」の輸送量増加が目立っている。他にも「穀物」「水産品」「その他の石油製品」の輸送量が伸びている。そのため対前月比105.7%と輸送量は増加した。しかし対前年同月比では99.0%と若干減少した。 今後の輸送見通しは、年末商戦が終わることもあり次月及び以降とも減少傾向にあると思われる。</p>
中国	<p>本月の輸送は、冬期需要により灯油等の「その他の石油製品」の輸送が増加し、また、お歳暮等に伴う「日用品」等の輸送増が見られたことから対前月比106.0%となった。対前年同月比は年末年始に伴う稼働日数減少により基本的な輸送減が見られたため97.8%と減少している。 今後の輸送見通しは、次月及び以降とも減少傾向にある。</p>
四国	<p>本月の輸送は、みかん出荷の最盛期により「野菜・果物」が、お歳暮等年末の需要増により「取り合わせ品」が、冬期需要で「その他の石油製品(灯油)」の輸送増が見られたため、対前月比は107.4%と増加したが、対前年同月比は100.5%とほぼ横ばいであった。 今後の輸送見通しは、次月及び以降とも減少傾向にある。</p>
九州	<p>本月の輸送は、年末商戦等の需要により「日用品」「食料工業品」「水産品」「取り合わせ品」が、また、天候に恵まれたため、「砂利・砂・石材」をはじめとする建設工事等に関連する品目の輸送増が見られたため、対前月比116.2%、対前年同月比103.3%とともに増加傾向を示した。 今後の輸送見通しは、次月及び以降とも減少傾向にある。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、年末を迎え、正月用の「日用品」「取り合わせ品」「食料工業品(飲料)」の輸送需要が増加した。また、先月に引き続き、切花(菊)の出荷の増加により「その他の農産品」の輸送需要が増加、米等の「穀物」の輸送需要も増加した。このことにより対前月比118.0%、対前年同月比108.1%となった。今後の輸送見通しは、次月及び以降とも減少傾向にある。</p>

## (3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数をとりました。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
1. 穀物	増	0	3	0	0	0	2	1	1	1	1	9
	減	2	4	0	0	1	0	1	0	1	0	9
2. 野菜・果物	増	0	1	2	1	2	2	1	3	4	0	16
	減	2	1	1	1	0	1	0	0	3	0	9
3. その他の農産品	増	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3
	減	6	0	1	0	0	0	0	0	0	0	7
4. 畜産品	増	1	1	0	0	0	0	1	0	3	0	6
	減	0	2	0	0	0	1	1	0	1	0	5
5. 水産品	増	0	1	0	1	1	2	0	0	5	0	10
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6. 木材	増	1	2	0	1	0	0	0	1	3	0	8
	減	3	2	1	2	1	0	0	1	0	0	10
7. 薪炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 石炭	増	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	3
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9. 金属鉱物	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
10. 砂利・砂・石材	増	2	2	0	1	0	0	1	0	8	0	14
	減	7	1	0	0	0	0	2	0	2	0	12
11. 工業用非金属鉱物	増	0	3	0	0	1	0	2	0	2	0	8
	減	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4
12. 鉄鋼	増	0	2	1	1	0	1	0	0	0	0	5
	減	1	0	0	0	1	0	3	0	1	0	6
13. 非鉄金属	増	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	3
14. 金属製品	増	0	1	0	2	1	2	1	2	2	0	11
	減	1	1	1	1	0	1	1	0	3	0	9
15. 機械	増	1	1	3	1	2	4	0	0	3	1	16
	減	1	0	1	0	2	2	1	1	3	1	12
16. セメント	増	1	0	0	0	1	1	1	1	1	0	6
	減	2	2	0	2	0	0	1	0	2	0	9
17. その他の窯業品	増	0	1	0	0	1	0	0	0	3	0	5
	減	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	3

